

かたち

藤岡芽生

指さす一点からも
ひとはあいまいで だけど
ふいな呼吸から
世界はかたちづく

ゆるい水着が濡れはじめ
境界を見誤つてゆくようには
あるいは

満ちた製氷皿の一角にはしる
たしかな決意の亀裂のように

とけこむ ことや

ぶんり ということがら

水面にある一点の自我
が

だれのくしゃみによつてか 移ろう

そのときに、いつたい
どちらのことがらが起きたのですか
一面にこだまし

たつたかたー とだけ

返つた

明るいサンルーム

プランターがひっくり返り

水びたしで

床は輪郭を失い

歓声をあげて走ることどもの

はだしからいま 生まれはじめる

一点の自我、
一点のあかり。

満ち満ちる半濁音のよろこびや
また だれかのくしゃみの先

に

洗濯バサミにはさまれ そよぐしつもん。

今

せかいにきざなみが立ち

ふたたび境界をなくすものたち

あ、でも

これはいつもあつた

ほら

乾いていく水着

一面のこだま